

第6回 小牧市まちづくり推進計画審議会 議事録

日 時	令和5年11月14日(火) 18時00分～19時05分	
場 所	小牧市役所本庁舎6階 601会議室	
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>浦田 真由 名古屋大学大学院情報学研究科准教授 柴田 謙治 金城学院大学人間科学部教授 清水 真 中部大学経営情報学部教授 長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校校長 長江 美津子 名古屋経済大学人間生活科学部特任教授 倉知 日出美 小牧市女性の会 副会長 近藤 鎮彦 小牧市区長会 連合会長 関 哲雄 (特非)こまき市民活動ネットワーク 事務局長 舟橋 拓馬 (一社)小牧青年会議所 副理事長兼室長 山本 華代 小牧市小中学校PTA連絡協議会理事北里中学校PTA家庭教育委員 吉田 友仁 (社福)小牧市社会福祉協議会 会長 伊藤 咲哉 一般公募者 岩野 さゆり 一般公募者 日榮 順子 一般公募者 舟橋 精一 一般公募者 晦日 優菜 一般公募者 吉田 富美子 一般公募者</p> <p>【事務局】</p> <p>笹原 浩史 市長公室長 駒瀬 勝利 市長公室次長 舟橋 知生 総務部次長 三品 克二 地域活性化営業部次長 小川 正夫 市民生活部次長 落合 健一 健康生きがい支え合い推進部次長 小川 真治 福祉部次長 伊藤 加代子 こども未来部次長 竹内 隆正 建設部次長 堀場 武 都市政策部次長 竹田 孝一 市民病院事務局次長 林 浩之 会計管理者 小口 高広 副消防長 丹羽 正幸 消防署長 矢本 博士 教育委員会事務局次長 舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課 課長 梅村 昌行 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長</p>	
欠席者	<p>大塚 俊幸 中部大学人文学部教授 鈴木 義久 小牧商工会議所 副会頭 發知 和夫 連合愛知尾張中地域協議会 代表</p>	

傍聴者	11名
配布資料	資料1 審議会委員からの意見・質問と市の考え方（回答） 資料2 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 第1章（案） 資料3 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 分野別計画編（案） 資料4 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 自治体経営編（案） 参考資料1 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 序章 参考資料2 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 都市ヴィジョン 参考資料3 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 市政戦略編 参考資料4 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画 計画の推進方策

内容

1. 開会

2. 市民憲章唱和

3. 会長挨拶

【柴田会長】

皆様、本日もお集まりくださり、誠にありがとうございます。

今日が第6回ということで、あとは1月の1回になります。よろしくお願いいたします。

本日は今後予定されているパブリックコメントの実施にあたり、第2次基本計画の計画案について、審議会として確認していくものです。

委員の皆様からはすでに通り、すべての分野に対してご意見をいただいておりますので、本日はそのご意見に対する市の考え方、また意見を踏まえた修正案についてご確認をお願いいたします。

それでは円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。

4. 議事

(1) 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画（案）

【柴田会長】

それでは、ここからは私が進行させていただきます。

まずはこれまでの審議会における意見質問等を踏まえ、最終的にどのような計画案とされたかなどについて、事務局から説明をお願いします。

【秘書政策課長】

秘書政策課長の舟橋です。

本日は12月に実施を予定しているパブリックコメントにおいて、広く市民の皆様には提示する計画案全体のご確認をお願いするものであります。

それでは私の方から、これまで5回にわたりご審議いただいた中で、いただいたご意見、ご質問に対する市の回答及びそれらを踏まえた計画図書の修正についてご説明させていただきます。

（資料1～参考資料4に沿って修正箇所を中心に説明）

私からは以上です。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

【柴田会長】

ありがとうございました。それでは審議に入りたいと思いますので、ご意見のある方は挙手をお願いします。変えるべきところについては、表現とかを含めて変更していただいて、審議会でのご発言を取り入れていただきたいと思います。長岩委員どうぞ。

【長岩委員】

長岩です。大きなところでは特にご異議ございませんが、ちょっと細かいところで、資料3の36ページの分野別計画編の「安全・環境」で、「防災・減災」というのが載っていて、これ自体は特に違和感があるわけではないのですが、災害時避難行動要支援者という人たちがいて、避難行動要支援者に配慮した避難誘導や、事前の防災活動などは非常に重要なわけですが、ここにはこれが入っていないんですね。

見ると、資料3の57ページに展開方向2として、「地域における支え合いの仕組みづくりを進めます」とあり、要は地域福祉活動の中に、この避難行動要支援者台帳の登録制度というのが紹介されています。

ですから、入ってはいるのですが、避難行動要支援者への配慮とか対応というのは、地域福祉活動でやることというよりも、36ページの中にきちんと取り入れるような事柄ではないのか、場合によってはその両方に入っているような気がします。

57ページの地域の助け合いのところにはしか入っていないとすると、ちょっと位置づけが低いということになってしまうのではないかなというふうに気になりました。

避難行動要支援者の関係は、厚生労働省の所管ではなくて、もともとは災害対策基本法に入っているもので、国の省庁でも内閣府の所管なんですね。

だから、地域福祉活動や地域の助け合いのところにはしか入っていないというのは、市としての位置づけが低いということになりはしないかというのがちょっと気になったところです。

それからもう1点ですが、同じく資料3の59ページに展開方向3として「重層的支援体制を整えます」ということで挙がってしまっていて、私も今、関わらせていただいて、地域福祉計画の中で議論しているところですが、この59ページの下の方の三つの枠の中、「地域ケア会議開催件数」とか「地域ケア会議の中でやっていく」という表現が出ているんです。

しかし、地域ケア会議は、厳密に言うと介護保険制度の中の会議体ですから、重層的支援体制整備をやっていくとすると、国のイメージでは重層的支援会議が位置づけられているんですね。

だから重層的支援を前面に出して展開方向を語ろうと思ったら、介護保険で規定された地域ケア会議の開催件数を指標にするのではなく、重層的支援会議を表現していく方が、整合性がとれるのではないかなというふうに思い、申し上げておきたいと思います。

【柴田会長】

ありがとうございました。ちょうど一つ目の点は、縦割りをどう考えるかというところであって、第1次基本計画の時にも、お年寄りのサロンが地域福祉に載っていて、子育てサロンが地域福祉には載ってなくて「それでいいんですか？」と言ったら、それは子育ての方だからというところでした。

その辺り、もしかしたら今回のこの計画についても、ある程度、縦割りとか役割分担をベースに、どこに何をを入れるかというところをやってきたのかもしれませんが、確かにそう言われると、その縦割りの部分を越えるのか、或いは越えて調整するのか、それとも縦割りでいくのか、というところが問われているというご趣旨かと思えます。

あと二つ目についても、確かに重層支援を入れないと、その体制整備ができないということで入れていただくのはありがたいと思うのですが、実際に指標の中でどういうところと紐づけるかというところは、確かにこれは市役所の中だけではなく社会福祉協議会等とも、どういう表現が一番妥当なの

かというところの確認が必要なかもしれませんが、事務局どうでしょうか。

【秘書政策課長】

事務局から回答させていただきます。

基本計画の施策の考え方が、おっしゃる通り、縦割りの形になっております。というのは、施策を推進する体制として組織がございまして、その施策を責任持って推進する体制を、例えば部なり課なり、そういったものを意識して記載をさせていただいております。このことから、横断的な記載というのが、この分野別計画編ではできていないような状況にはなっております。

このような形で過去からきておりますので、要支援者への配慮につきましては、現在、実施している地域福祉の方で記載されているものの、防災の方でも記載できるかどうか、事務局で持ち帰らせていただき、検討させていただきたいと考えております。

また、重層的支援につきましても同じように、どこまでの記載ができるか等につきまして持ち帰らせていただき、後日回答させていただくというような形にさせていただきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

【柴田会長】

長岩委員、いかがでしょうか。

【長岩委員】

承知しました。

【柴田会長】

少し補足させていただきますと、確かに行政の中での所管部署がはっきりしない、縦割りが全くないという状況は多分ないだろうというふうに思います。

ただ、今は庁内連携の時代でもありますので、先ほどの1点目の辺りも、庁内連携で進めていくものだとすると、どういう箇所どういう表現の仕方が一番望ましいのかというところは、少しお考えいただき、特に重層支援についても、例えば名古屋の何ヶ所かで先駆的にやっているのは、確かに地域ケア会議というよりは、地域のいろいろな社会資源を開発して、一番伸びしろがあるところを伸ばして、それによって一つでも課題に対応できる、これが重層の本質だということが名古屋市社協などでも話題になっているところです。これもやはり地域包括がらみの庁内連携でしょうか。それから、民間の社会資源とか、民生委員さんとか、いろいろなところとの連携が非常に大事なところになります。

ですから、そこら辺はパブコメに入る前に、一度行政の方で、庁内連携が必要なものについてどう変えていくかというのを、一度ご検討いただければいいのかなと思います。ありがとうございました。

それでは他にいかがでしょうか。

一般公募の日榮委員。

【日榮委員】

ちょっとたくさんあるのですが、順番にお聞きしたいなと思います。

資料3の45ページのごみについて、「現況と課題」ですが、これいきなり「不適正排出者の約3割は外国人市民で」というようなことが書いてあるのですが、もう少しやわらかい表現はないかなと。まるっきり外国人の方がみんな悪いことをしているような感じが、どうしてもこの文章をぱっと見て思ってしまったので、ちょっと変えていただけないかなというふうに思いました。

【柴田会長】

1点ずつやっていった方が整理しやすいかと思うのですが、よろしいでしょうか。
まずこの点について、いかがでしょうか。

【市民生活部次長】

ありがとうございます。
一度持ち帰り、その辺りやわらかくできるかどうか考えてみますのでよろしくお願いします。

【柴田会長】

よろしくお願いいたします。
それでは2点目、お願いします。

【日榮委員】

2点目ですが、資料の3、84ページ。これは私が思ったことですが、今年、小規模保育施設と私立の保育園で虐待という非常にショッキングな事件がありました。あつてはいけないことですが、この研修、研修というように保育士の先生方に押し付けるような形ではなく、たくさんの子どもたちを見る先生1人当たりの負担が減るような仕組みを作っていくということも大事だなと思います。

それと、経営側のマネジメントで、保育士さんたちの配置とか業務の配分なんかも考えていかないとイケないのではないかなと思います。

保育士さんの質の問題や職場の環境改善も大事ですけども、もうちょっと経営者側等も考えていただきたいなということを思いましたので、述べさせていただきました。

【柴田会長】

この点について、事務局いかがですか？

【こども未来部次長】

こども未来部次長の伊藤です。

先日、報道がありました不適切保育の関係でというところだと思います。

おっしゃる通り、いろいろな点で課題等が上がってきておまして、なかなかこの計画上に細かいことまで書き込むことは難しいと思っておりますが、今回、展開方向2の研修の部分や、手段の二つ目、三つ目に研修の取組について追記をさせていただいております。

保育士の配置については、国の基準に基づいてやっておりますが、なかなか研修を受ける機会がなかったということも一つの原因であったと、現在認識しております。研修会場に業務上、足を運ぶことができない方もおりますので、そのような方と研修内容を共有できるような体制の研修のやり方を今後検討していきたいと思っております。

また、経営者側というようにお話もございましたが、保育士は、民間、公立含め、職場環境というのは大切なところだと思いますので、先ほどの展開方向2の一つ目のところで、大ざっぱな書き方ではあります但し職場環境の向上ということも少し取り入れて書かせていただいております。

以上です。

【日榮委員】

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【柴田会長】

この点については、まちづくり推進計画でどこまで書くか、或いは、子ども・子育て支援の計画の方でより詳細を書いていくのかというところになるのかもしれませんが。

あと、前回所用でご出席いただけなかった長江委員もこの点について何かありましたらお願いします。

【長江委員】

長江です。今、会長が言ってくださったのですが、やはり保育というのは本当に細かいことがいろいろありまして、今の研修というご指摘のところもそうなのですが、研修と言っても、こういうふうに「何かをするべきだ」というような研修ではなく、ここに事例検討という記載もありますけれども、こどもたちの一人ひとりの行動の読み取りをすることによって、いろいろとこどもの心の動きとか、そういう普段見過ごしてしまうところを1回活字にして、そこで皆さんで話し合うことによって、感動したり、改めてこんな声掛けがよかったのかなというように、実際の生のこどもたちの姿を話し合うことで、先生方がそこでまた改めて自分のこととしていろいろ感じるということが次の保育に対する意欲に繋がっていくというところがあります。

研修と言っても一般的な食物アレルギーに対することであつたり、いろいろな研修があるのですが、そういうところは、やはりここに書くのは難しいかなと思いますので、具体的なことはまた違うところで表記していただいて、実践していただくというのが大事なというふうに思っております。

【柴田会長】

はい。ありがとうございます。

日榮委員がいくつかありますということだったので、もうちょっとありますか。

【日榮委員】

あと2つあるのですが、資料3の99ページです。

まちの状態を表す指標が、一気に3つ削除されているが、交流人口の指標だけでまちの状態を表せるのかというのがちょっと疑問に思ったところです。

【柴田会長】

事務局いかがでしょうか。

【地域活性化営業部次長】

私どもも、今回どのようにこの指標を考えるかという整理の中で三つ削除させていただきました。残した指標が交流人口ですが、もう一度このところ考えさせていただくということをお願いしたいと思います。

【日榮委員】

これで最後になります。資料3の114ページ、都市交通のところですが、真ん中の方に「名鉄小牧線」と「今後リニア中央新幹線の開業を契機に」という文章が書いてあるのですが、小牧のハイウェイオアシスは、どうなっているのでしょうか。これは小牧市の交通にすごく影響があるのではないかと思います、今どんな感じなのか、小牧市としては一切関知していないということだったら、それも教えていただきたいなと思いました。以上です。

【柴田会長】

事務局いかがでしょうか。

【建設部次長】

建設部の竹内と申します。よろしく申し上げます。

ハイウェイオアシス事業ですが、あくまでも民間事業ということで、我々の立場としては、必要な法の規制の審査を去年からしておりますので、基本的には、先方の事業体の動向を注視させていただいているということで、詳細のすべてについてはわかりかねますが、必要な情報は連携して対応していきたいと思います。以上です。

【日榮委員】

ありがとうございました。

【柴田会長】

それでは他にご意見、ご質問のある方がでしょうか。
一般公募の舟橋委員、お願いします。

【舟橋委員】

舟橋です。資料3の65ページです。基本施策「障がい者（児）福祉」展開方向1の「障がいに関する正しい理解を深めます」のところ、修正意見ではなく情報提供として話しますが、障がい者（児）スポーツレクリエーションのつどいの参加者数についてです。

この障がい者（児）スポレクの第45回が、一昨日、11月12日にパークアリーナで行われました。その時の参加者総数は273名でした。内訳は、障がい者（児）が114名、スタッフ、家族、ボランティア等が159名という状況でした。この障がい者（児）スポレクの第1回は昭和52年で、私はそのころからボランティアとして参加していました。このスポレクの参加者は年々増加し、コロナ禍前には、参加者総数600名を超える年もありました。その頃は障がい者（児）の参加は220名前後で、それに関係者やボランティアが加わりました。ボランティアは、市内のボランティア団体やスポーツ団体、学校、フィランソロピーを実践している企業の従業員、個人応募者などです。かつて、民生委員協議会が参加してくださっていた時期もありました。

障がい者（児）スポレクは、日頃単調な生活になりがちな施設利用の障がい児に楽しい一日をプレゼントしよう、と昭和52年に始まり、市内の障がい児、者と市民が一堂に会する、コロナ禍中の二年を除いて、半世紀近く継続している小牧市としても誇れるイベントと思っています。近年増えている就労支援系などの事業所も参加してくれるといいなとも思っていました。

ところが、コロナ禍による二年の中止の後、再開一回目の昨年は規模を大幅に縮小して、200名弱の参加者になってしまいました。これを機に参加をやめる施設が現れ、また、施設職員のやりくりが大変、負担が大きいということで、開催を終了する時期に来ているのではないかという意見も聞かれるようになっていきます。このイベントを今後どのようにして維持していくか、開催方法も含めて、多くの人の意見やアイデアを募って検討すべき時期にあるのかなとも思っています。以上です。

【柴田会長】

ありがとうございます。

これについては情報提供というご趣旨ですので、特に事務局の方から何かコメントすることはございますか。

【福祉部次長】

福祉部次長の小川と申します。

スポーツレクリエーションですけれども、コロナ前は非常に多くの参加者があって、お昼を挟んで午後も玉入れですとか、玉転がしですとかそういうので大変賑わっていたということだったのですが、先日行った時も、参加者の方もボランティアの方も、皆さん一生懸命やられて、私の感想では、非常に楽しんでやられていたという印象を受けています。携わっていただいているボランティアの方や事業所の方、障がい児、障がい者の実際参加される方とそこご家族の方のご意見もよく聞きながら、今後の開催についてはできるだけ続けるような形で進めていきたいなというふうに、見学をさせていただいて感じました。

また、皆さん方からもいろんな意見を頂戴しながら、より多くの方が参加できるような形で運営をしていきたいなというふうに思っております。以上です。

【柴田会長】

他にご意見等いかがでしょうか。

それでは長江委員をお願いします。

【長江委員】

今更ですけれども、資料3の82ページ、「幼児教育・保育」の「○」の5つ目です。「保育士が慢性的に不足しており」というところですが、一般的に保育士と呼ばれるのは、保育園に勤務している職員と、小規模保育所に勤務している職員で、幼稚園の先生は保育士とは呼びません。そこでこの部分が混在しているような気がして、保育士が慢性的に不足していて、休暇取得も勤務ローテーションも今なかなか難しいというところが、公立の保育園に視点を当てた表現ではないのかなという。多分、幼稚園教諭の方もなかなか勤務体制が難しいのではないかなということを感じますが、その2行のところは、公立の保育園のことかなと思います。

それから併せて、本市が目指す子ども像の「豊かな心でよく遊べる子ども」というのは、小牧市全体のこどもたちのことを目指しているのではなく、公立保育園の掲げている子ども像ではないのかなと。どちらかという公立保育園を中心にした表現ではないのかなというふうに思います。

ですので、そのところをもうちょっと表記の仕方を変えて、小牧に通っているこどもたち全体の、小規模から、幼稚園、保育園、認定こども園も含めた全体の保育士というか、保育者の専門性の向上を図るというような表記にさせていただいたらありがたいかなと思います。

【柴田会長】

ありがとうございます。

確かにご指摘のように、もう公立保育園中心というよりはどんどん民営化されて、むしろ民営化の方がどんどん上回っていくようなそういう時代ですよね。これについて事務局いかがでしょうか。

【こども未来部次長】

ご意見ありがとうございます。

一度整理をしまして、検討させていただきたいと思います。

【柴田会長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。大体出尽くしたと考えてよろしいでしょうか。

それでは質問も出尽くしたようですが、今日原案から、ある程度庁内での議論を経て多少修正も入ってくるであろうかと思っております。本日のご意見を踏まえた計画の修正につきましては、私と事務局において修正の協議を行いますので、その修正内容につきましては、誠に恐れ入りますが、私にご一任いただくということによろしいでしょうか。

本日に、いろいろな記述について、ああしよう、こうしようというふうにはいろいろと言っていけば、無限に意見が出てくるとは思います。とはいえ、個別の計画がありますし、このまちづくり推進計画の中でどこまで書くかというところでは、ある程度の修正というところでご一任をよろしく願いたします。

以上で、本日予定していたすべての審議が終わりましたので、事務局にお戻しします。

【秘書政策課長】

委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。

本日ご審議いただきました内容を踏まえつつ、最終的な調整につきましては、会長に相談をさせていただき、その上で、パブリックコメントに諮らせていただきたいと思います。

なお、今後の予定であります。12月6日から1月4日までの間にて、パブリックコメントを実施する予定であります。また、あわせて市議会にも同様に計画案をお示しし、今後、市議会としてのご意見もいただく予定であります。パブリックコメントによる市民からのご意見、それから、審議会からのご意見につきましては、今後、ご案内を出させていただきますが、次回の第7回審議会にてご報告させていただきます、最終的な答申をいただければと考えておりますので、よろしく願いたします。

次回の審議会は、来年1月30日の火曜日、午後6時から、この会場で予定しております。

お忙しい中、恐れ入りますが、ご出席のほどよろしく願いたします。

最後に、事務局より交通安全についてのお願いをさせていただきます。

交通事故を決して他人事と思わず、日頃から気をつけていただきますようお願いいたします。

特に、今年は市内でも横断歩道での交通死亡事故が多発している状況であります。横断歩道は歩行者優先であり、車を運転される際には、横断歩道の手前では速度を落とし、歩行者等の早期発見に努めてください。また、歩行時においては、左右の安全確認を行った上で、必ず横断歩道を使っただくなど、運転者も歩行者も交通ルールをしっかりと守り、加害者にも被害者にもならないよう、日頃より交通安全にご注意いただきますようお願いいたします。

それでは、これもちまして第6回小牧市まちづくり推進計画審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。

5. 閉会